

第3次

さつま町食育・地産地消推進計画



令和7年3月

鹿児島県さつま町

目 次

第1章 計画策定について

1 計画策定の背景および趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2

第2章 食を取り巻く現状と課題

1 食生活	3
2 健康づくり	4

第3章 食育・地産地消の展開

1 食の安全・安心	5
2 農林水産物の生産状況	5
3 学校給食における地場産農作物の活用状況	8
4 直売所の来客数及び販売額	9
5 観光農園の設置状況	9
6 グリーン・ツーリズムの取り組み状況	9
7 第2次さつま町食育・地産地消推進計画の達成状況	10

第4章 食育・地産地消の基本的な考え方

1 食育・地産地消に関する基本理念	11
2 食育・地産地消の基本方針	11
3 食育・地産地消の推進	11
4 食育・地産地消における推進体制	12
5 食育・地産地消における推進体系	13

第5章 食育・地産地消の数値目標

参考資料

食育・地産地消に関するアンケート調査集計結果	15
------------------------	----

第1章 計画策定について

1 計画策定の背景および趣旨

食は私たち人間が生きていくためには欠かすことができないものであり、命の根源となる大切なものです。

平成17年6月に「食育基本法」が制定され、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指し、食育を推進してきました。

また、国産の農林水産物の消費を拡大する地産地消等の促進に関する施策を総合的に推進することを目的として、平成22年12月に「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」が制定されたところです。

これに伴い、鹿児島県では、地産地消を基本とした県民の健康で豊かな食生活の更なる普及・定着を目指して、「かごしまの“食”交流推進計画」を策定し、「食育と地産地消」の取り組みを推進しています。

しかしながら、現代の社会経済情勢や環境の変化に伴い、ライフスタイルや価値観も多様化しており、食をめぐる環境は大きく変化し、様々な課題を抱えています。

栄養の偏りや食習慣の乱れによる、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身や低栄養等など、食の大切さへの意識が薄れつつあり、健全な食生活を実践することが困難な場面も増え、古くから各地で育まれてきた地域の伝統的な食文化が失われていくことも危惧されています。

本町においては、豊かな自然に育まれた新鮮な農林水産物が生産されており、これらを食材として活用した豊かな食生活を実現できる環境にあります。これまで推進してきた「第2次さつま町食育・地産地消推進計画」の成果や課題、社会情勢の変化などを踏まえ、さつま町の地域性を活かした「食育」の推進、また、地元でつくったものを地元で消費する「地産地消」の取り組みを推進するため、「第3次さつま町食育・地産地消推進計画」を策定し、町民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指します。

食育とは

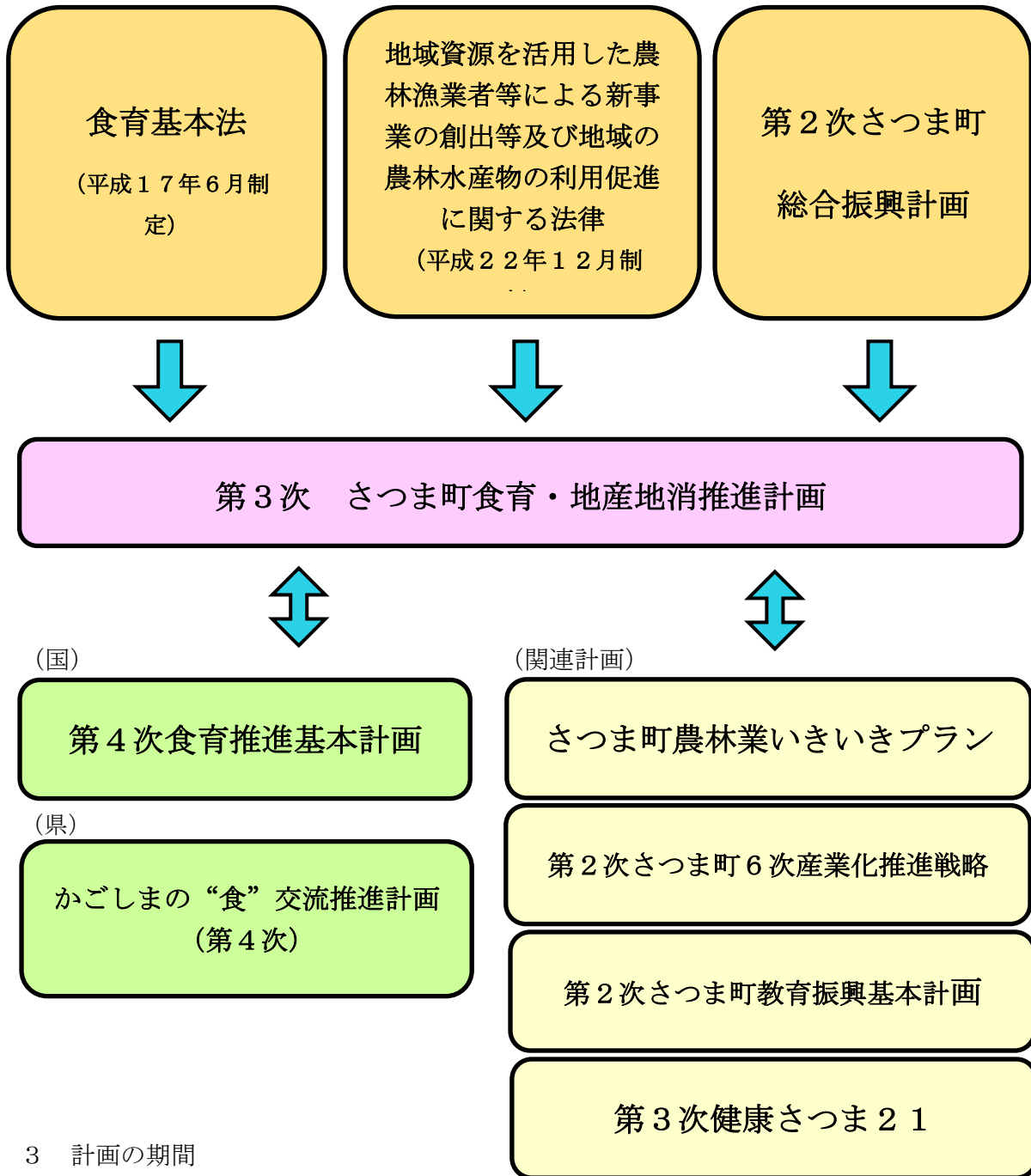
生きている上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践すること。

地産地消とは

町内で生産された農林水産物(食用に供されるものに限る。)を、地域内において消費する取り組みです。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取り組みなどを通じて、6次産業化にもつながるものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、町政の基本方針である「第2次さつま町総合振興計画」を上位計画に、食育基本法の目的・基本理念を踏まえ、同法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画であり、県の「かごしまの“食”交流推進計画（第4次）」、「さつま町農林業いきいきプラン」及び「第2次さつま町教育振興基本計画」などの本町における各種関連計画との整合を図ることとします。



3 計画の期間

本計画の期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間の計画とします。

ただし、計画期間中の状況の変化によって、必要に応じて見直しを行うものとなります。

第2章 食を取り巻く現状と課題

1 食生活

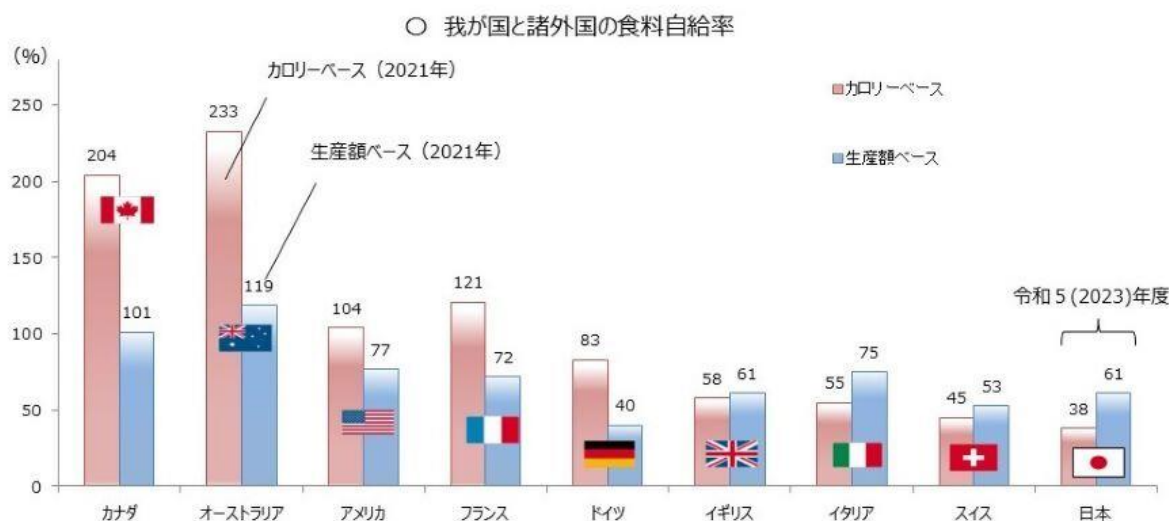
近年、私たちの食生活は、ライフスタイルの多様化などに伴って大きく変化しています。食生活が豊かで便利になった一方で、利便性・簡便性が追及されるようになり、食に関する関心、感謝の念の低下や食生活の乱れ、栄養の偏りや不規則な食事の増加など、健全な食生活が失われつつあります。これらに起因して、メタボリックシンドロームや生活習慣病の増加など、食生活の正しい認識を持たないことにより、さまざまな問題が生じてきています。

このような状況の中で、町内の各小学校5年生・中学校2年生の児童・生徒とその保護者を対象に食育と地産地消に関するアンケート調査を行いました。

その結果、朝食を毎日食べている人の割合は、小学生86%・中学生85%と高く、「食べない」は小学生1%・中学生では3%となっています。

また、朝食の内容については、主食・主菜・副菜がそろった食事をほとんど毎日食べている人は44%で、生活スタイルの変化により、家族そろって朝食を食べる割合が低く、1人で食事を摂る「孤食」の割合も増加傾向にあります。家庭において「食」のあり方が変化していることに伴い、食事のマナーや料理に関する関心の低下、基本的な食習慣を身につける機会が減少することなどが危惧されます。

主要先進国の食料自給率



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省が東京大学デジタルオブザバトリ研究推進機構と連携して試算。（アルコール類等は含まない）
注1：数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。
注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

（資料：「食料自給率」．農林水産省．https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/013.html、参照）

2 健康づくり

社会構造の変化や町民の価値観の多様化を背景に、栄養の偏りや不規則な食習慣、肥満や生活習慣病の増加、過度のやせ志向などさまざまな問題があります。不規則な食生活や運動不足などは肥満をもたらし、糖尿病、高血圧など多くの生活習慣病の原因となり、やせ過ぎは、貧血や骨粗しょう症などにつながります。このようなことから、自分の「適正なエネルギー量」を知り、バランスの取れた食事を身につける必要があります。

第3次健康さつま21における調査結果では、心疾患・脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の予備軍であるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）・糖尿病が増加傾向にあり、令和4年度特定健診（40～74歳）によるメタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合が、男性では全体の52.9%、女性では全体の26.6%となっており、各年代において、女性より男性の方が高く、生活習慣病を予防する面からも野菜を積極的に取り入れるよう指導していく必要があります。

<さつま町死因別死亡数>

単位：人、（ ）内は人口10万対の死亡者数

	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	総死亡
平成30年	70 (322.8)	63 (299.5)	32 (152.1)	63 (209.2)	395
令和元年	84 (406.5)	55 (266.2)	20 (96.8)	36 (174.2)	358
令和2年	96 (474.2)	66 (326.0)	36 (177.8)	45 (222.3)	372
令和3年	93 (471.4)	69 (349.8)	28 (141.9)	37 (187.6)	385
令和4年	80 (416.1)	73 (379.7)	37 (192.5)	54 (280.9)	478

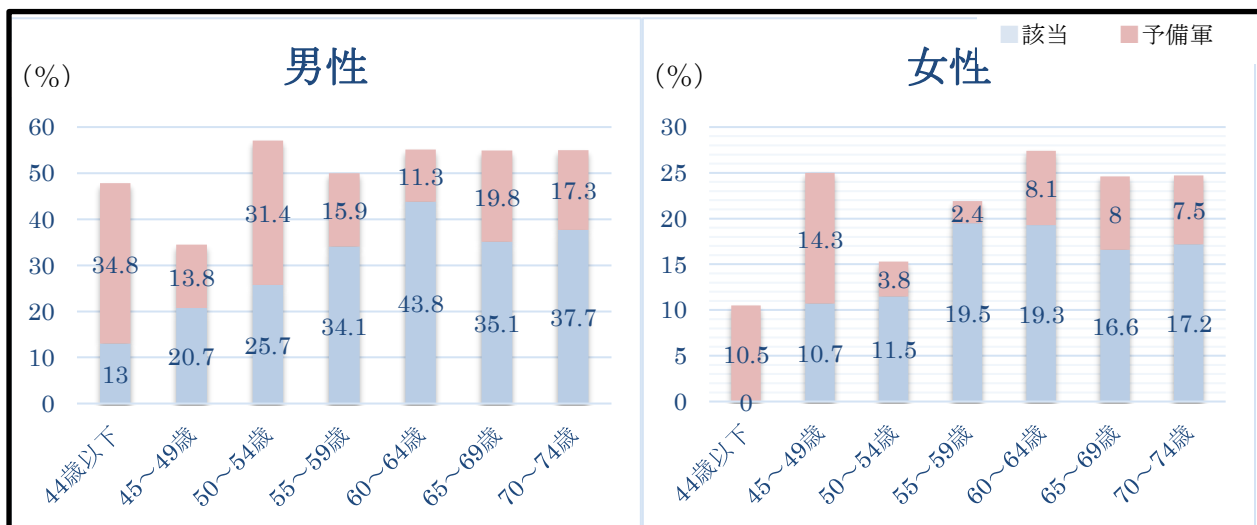
（資料：鹿児島県保健福祉部 衛生統計年報）

<さつま町特定健診受診率および特定保健指導実施率>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定健診受診率	70.8%	66.4%	69.1%	67.3%	66.2%
特定保健指導実施率	72.8%	61.5%	63.0%	67.3%	67.8%

（資料：資料：さつま町ほけん福祉課 特定健診・特定保健指導実施結果総括表）

<令和5年度特定健診メタボリックシンドローム該当者及び予備群の年代割合>



（資料：さつま町ほけん福祉課 特定健診・特定保健指導実施結果総括表）

第3章 食育・地産地消の展開

1 食の安全・安心

食中毒や家畜伝染病である口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザなどの発生や異物混入など安全性にかかわる事案を契機に、食品の安全性に対する消費者の関心が高まっています。

食品の安全性が損なわれれば、人々の健康に影響を及ぼし、時には重大な被害を生じさせる恐れがあることから、食品の安全性と町民の食に対する知識と理解を深める必要があります。このため、町民・生産者・食品関連事業者及び行政が連携を図り、相互理解と信頼関係を構築することが重要です。併せて、安全・安心な地元の食材を地元で消費する地産地消の取り組みを推進していきます。

アンケート調査の結果では、地産地消の「言葉も意味も知っていた」「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答した人は、成人では96%、小学生92%、中学生86%と高く、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人は、成人で80%となっていますが、小学生61%、中学生70%と、知ってはいるが地産地消に関する関心は低い状況となっています。

2 農林水産物の生産状況

農家数や農業就業人口の減少、高齢農業者の割合は急速に高くなってきています。特に農業者の高齢化率は60.2%と、国の平均69.8%と比較しても、親元就農や経営継承など若返りが進んでいる様子が伺えます。

経営耕地面積の減少に見られるように、農業生産力の低下や農地等の荒廃化など農地の果たす多面的機能の低下、農村環境の悪化が懸念され、「将来、誰が集落の農業を担っていくのか」ということが、大きな課題となっています。

本町は水田地帯であるが、排水の悪い圃場も多いため、水稻の収穫作業等において支障をきたす圃場や、高収益作物への転換が難しい圃場もあります。

また、園芸作目においては、トマトやいちごなどの施設園芸の他、さといも、ごぼう、かぼちゃなどが主体として生産されてきていますが、いずれも生産農家の高齢化や価格低迷、農業資材の高騰など生産環境は厳しい状況にあります。

畜産においては、農家戸数が減少しているが、経営継承などにより若手農家が多くなっています。

一方で、物価高騰により、消費者の購買意欲の低下などから、子牛の販売価格は年々下落傾向にあり、先行き不安な状況にあります。



＜農家数等の推移＞

区 分	22 年度	27 年度	2 年度	備 考
農家数（戸）	2,754	2,278	1,834	
販売農家数（戸）	1,855	1,561	1,206	
農家人口（人）	5,901	3,780	2,808	販売農家
農業就業人口（人）	2,728	2,085	1,720	販売農家
高齢農業者数（人）	1,931	1,278	1,036	販売農家
高齢化率（％）	70.8	61.3	60.2	
基幹的農業従事者数（人）	2,313	1,791	1,342	販売農家

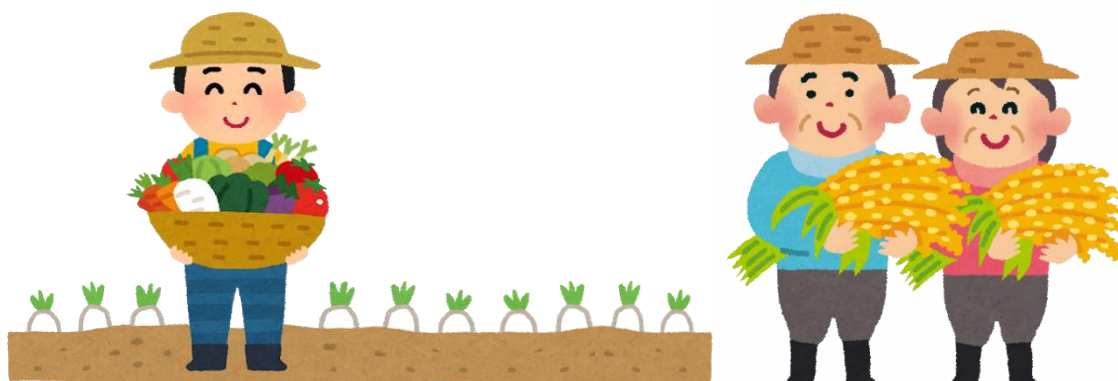
（資料：農林業センサス）

＜耕地面積の推移＞

（単位：h a）

区 分	22 年度	27 年度	2 年度	備 考
耕地面積（ha）	3,360	3,320	3,200	
うち水田（ha）	2,280	2,250	2,180	
うち畑（ha）	1,080	1,070	1,020	
経営耕地面積（ha）	2,680	2,462	2,217	
耕作放棄地（ha）	410	489	—	（注）2 年度調査から除外

（資料：農林業センサス、農林水産業統計調査）



＜農業産出額調べ＞			(単位：ha, t, 千本, 頭, 千羽, 千円)						
区 分	R4年度			R5年度				比較	
	面積等ha	生産量t	生産額A	面積等ha	生産量t	生産額B	割合%	B/A	
耕種部門	1,468.1	14,075.2	2,977,927	1,463.6	18,702.8	2,917,941	19.2	98.0	
普通作物	1,185.1	6,109.8	1,327,680	1,185.7	6,180.4	1,425,815	9.4	107.4	
水稻	1,140.8	5,840.9	1,314,202	1,138.5	5,783.6	1,393,843	9.2	106.1	
麦	8.7	12.0	1,842	5.2	8.3	465	0.0	25.2	
かんしょ	12.0	240.0	8,400	17.0	365.0	27,937	0.2	332.6	
大豆	3.1	4.0	402	2.5	2.9	166	0.0	41.3	
そば	20.5	12.9	2,834	22.5	20.6	3,405	0.0	120.2	
その他(小豆, 陸稻)	0.0	0.0	0				0.0	100.0	
工芸作物	162.7	397.0	366,516	161.7	343.6	341,378	2.2	93.1	
茶(荒茶)	161.5	394.0	360,626	160.5	340.6	335,488	2.2	93.0	
葉たばこ	1.2	3.0	5,890	1.2	3.0	5,890	0.0	100.0	
その他(なたね)	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	#DIV/0!	
野菜	50.7	1,290.6	638,464	40.1	1,082.7	516,800	3.4	80.9	
トマト	6.0	707.0	216,447	4.5	585.0	131,500	0.9	60.8	
いちご	3.0	114.0	138,922	2.4	90.0	110,400	0.7	79.5	
ごぼう	3.9	21.6	11,300	2.8	15.4	8,000	0.1	70.8	
さといも	19.0	217.9	30,900	16.3	203.5	40,600	0.3	131.4	
かぼちゃ	18.0	225.0	36,700	13.5	182.0	44,400	0.3	121.0	
ジャンボいんげん	0.8	5.1	4,195	0.6	6.8	4,910	0.0	117.0	
その他			200,000			176,990		88.5	
果樹	60.3	655.0	233,859	67.3	5,813.3	246,222	1.6	105.3	
梅(青果)	30.0	75.1	21,028	30.0	57.0	15,007	0.1	71.4	
梅(加工)		187.0	21,131		133.0	15,015	0.1	71.1	
きんかん	4.5	76.8	55,800	4.5	75.0	56,400	0.4	101.1	
ぶどう	3.9	31.0	31,000	2.7	35.7	46,400	0.3	149.7	
なし	5.4	160.0	50,000	4.9	147.0	73,500	0.5	147.0	
マンゴー	0.8	10.7	16,000	0.7	6.8	13,700	0.1	85.6	
温州みかん	15.7	114.4	38,900	15.7	76.0	26,200	0.2	67.4	
その他							0.0	#DIV/0!	
花き(千本)	9.3	5,622.8	411,408	8.8	5,282.8	387,727	2.5	94.2	
畜産部門			11,569,690			12,307,644	80.8	106.4	
乳用牛	生乳(頭)	30.0	28.0	2,996	0.0	0.0	0	0.0	0.0
肉用牛	生産(頭)	8,322.0	2,829.0	1,720,830	8,291.0	2,818.0	1,442,816	9.5	83.8
	肥育(頭)		2,711.0	2,526,652		2,700.0	2,470,500	16.2	97.8
豚	肉豚(頭)	39,860.0	60,922.0	2,497,802	39,963.0	61,079.0	2,626,397	17.2	105.1
	種豚(頭)		13,982.0	517,334		14,018.0	518,666	3.4	100.3
採卵鶏(千羽)		82.0	1,476.0	252,396	129.0	2,322.0	464,400	3.1	184.0
ブロイラー(千羽)		1,694.0	8,808.0	4,051,680	1,787.0	9,291.0	4,784,865	31.4	118.1
飼料作物(産出額含めず)		1,008.0	44,360.0	257,299	997.0	43,875.0	257,288	1.7	100.0
合 計			14,547,617			15,225,585	100	104.7	

(資料：さつま町農林課)

3 学校給食における地場産農作物の活用状況

次代を担う大切な子供たちに、地場農林水産物の提供を通して、郷土への関心や理解を深めてもらうために、生産者や流通関係者と学校給食センターが連携し、積極的な食材の提供が行われるよう取り組んでいます。

また、農産物への興味・関心を持ってもらえるように、地場農林水産物（白米・牛肉・きんかん・梅など）を使った給食の提供をしています。毎月の献立表においても、使用している地場農林水産物を記載することで、地元で作られる農産物への理解を推進しています。

令和6年度学校給食食数

給食センター名	小学校数	中学校数	校数計	1日の食数
学校給食センター	6	1	7	1,479

（資料：さつま町教育委員会 学校給食センター）

学校給食における主な食材の活用状況（令和5年度 宮之城給食センター実績）

種別	産別	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	合計	町内産割合
単位（kg）	人参	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	326.9	316.7	364.5	168.6	1,176.7	3,649.7	32.2%
		県内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0%
		国内産	330.7	370.1	415.0	161.7	350.2	378.2	384.0	0.0	0.0	83.1	2,473.0		67.8%
	玉葱	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4,840.1	0.0%
		県内産	45.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	334.8	380.0		7.9%
		国内産	401.2	498.9	683.6	307.6	521.8	572.4	330.4	443.1	292.0	37.7	4,460.1		92.1%
	大根	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.4	327.8	199.7	0.0	0.0	592.9	1,281.7	46.3%
		県内産	103.0	92.6	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	296.3	91.9	633.8		49.4%
		国内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.0		4.3%
	じゅがいも	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4,301.6	0.0%
		県内産	468.9	481.8	78.5	0.0	0.0	0.0	0.0	265.3	317.2	286.1	1,897.8		44.1%
		国内産	116.5	0.0	439.8	170.4	469.1	351.6	489.5	336.9	30.0	0.0	2,403.8		55.9%
	キャベツ	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	171.0	0.0	171.0	3,360.9	5.1%
		県内産	356.5	66.0	0.0	0.0	0.0	221.0	326.4	165.0	220.8	82.3	1,438.0		42.8%
		国内産	0.0	335.9	419.3	284.2	184.0	354.3	174.2	0.0	0.0	0.0	1,751.9		52.1%
	もやし	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,764.0	0.0%
		県内産	124.0	174.0	138.0	90.0	126.0	320.0	208.0	144.0	130.0	202.0	1,722.0		97.6%
		国内産	0.0	0.0	0.0	0.0	42.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.0		2.4%
	白菜	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.6	142.5	237.0	255.0	0.0	657.1	1,074.0	61.2%
		県内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.0	153.6	0.0	0.0	14.5	213.1		19.8%
		国内産	58.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	130.8	203.8		19.0%
	筍	町内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	969.0	0.0%
		県内産	77.0	188.0	121.0	31.0	152.0	84.0	32.0	44.0	116.0	45.0	969.0		100.0%
		国内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0%
	その他	町内産	73.1	55.2	230.4	314.7	316.5	302.1	302.8	237.5	358.0	82.0	2,640.3	4,610.5	57.3%
		県内産	77.0	219.7	126.0	68.0	152.0	145.7	205.5	90.4	116.0	73.8	93.5		29.7%
		国内産	73.6	17.3	114.1	58.3	87.2	98.0	7.7	0.0	4.0	7.6	134.8		13.1%
	合計	町内産	73.1	55.2	230.4	314.7	316.5	302.1	390.8	1,034.7	1,111.4	1,158.5	5,238.0	25,851.5	20.3%
		県内産	1,251.6	1,222.1	463.5	189.0	430.0	594.7	870.1	604.8	792.3	1,155.1	8,621.3		33.3%
		国内産	980.0	1,222.2	2,071.8	982.2	1,654.3	1,824.5	1,385.8	780.0	326.0	379.0	11,992.2		46.4%
単位（個）	イチゴ	町内産	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	60.0	60.0	100.0%
		県内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0%
		国内産	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0%
単位（個）	みかん	町内産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,931	0.0%
		県内産	0	0	0	0	0	1,251	3,660	0	0	0	4,914		49.5%
		国内産	0	0	1,257	0	0	1,256	0	1,255	1,249	0	5,017		50.5%

（資料：さつま町教育委員会 学校給食センター）

4 直売所の来客数及び販売額

本町には、直売所が5施設あり、新鮮な野菜、果物及び農林産物加工品等を販売しています。

販売額について、令和4年度・5年度は、これまで開催していた町内にある5直売所を巡る「ぐるっとさつまスタンプラリー」に加えて、特別企画として、条件を満たせば、黒毛和牛肉等が当たる抽選に応募できるイベントを開催したことによって、販売額が増加しました。

来客数及び販売額

(単価：人・千円)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
来客数（5施設）	458,270	460,262	457,558
販売額（5施設）	533,942	548,187	558,282

(資料：さつま町農林課)

5 観光農園の設置状況

町の観光農園は11か所あり、収穫体験や直売所販売に加え、品目毎のシーズンには、町内外からの交流人口増や、町内農林産物の消費拡大に繋がっています。

品目別件数

ぶどう	なし	きんかん	マンゴー	みかん	いちご	うめ
9か所	5か所	1か所	3か所	2か所	1か所	1か所

(資料：さつま町農林課)

6 グリーン・ツーリズムの取り組み状況

本町では、さつま町グリーン・ツーリズム協議会を中心に、中学生及び高校生の修学旅行生の受入や森林体験学習等（筍掘り体験・キノコのコマ打ち・紙漉きなど）の活動をしており、農家民宿の許可をとっている農家は5軒となっています。

体験学習・修学旅行の受入実績（令和5年度）

活 動 内 容	参加者数
炭焼き	5人
紙漉き体験	5人
キノコのコマ打ち体験	20人
筍掘り体験	7人
修学旅行受入	3人

(資料：さつま町農林課)

7 第2次 食育・地産地消推進計画の達成状況

第2次さつま町食育・地産地消推進計画は、令和元年度から令和6年度までを期間として作成しました。第3次さつま町食育・地産地消推進計画は、令和6年度に実施した食育・地産地消アンケート調査の結果や前回計画の達成度などを踏まえて新たな目標をめざします。

項 目	基準値 (令和元年度)	目標値 (第2次さつま町食育・ 地産地消推進計画の 数値目標)	実績値 (令和6年度)	達成 状況
家族そろって朝食を 摂る家庭の割合	小学校5年生 32% 中学校2年生 16% 成人 27%	小学校5年生 35% 中学校2年生 18% 成人 30%	小学校5年生 33% 中学校2年生 41% 成人 49%	× ○ ○
朝食を食べる割合	小学校5年生 88% 中学校2年生 86% 成人 81%	小学校5年生 90% 中学校2年生 88% 成人 83%	小学校5年生 86% 中学校2年生 85% 成人 83%	× × ○
主食・主菜・副菜を 食べる割合	小学校5年生 71% 中学校2年生 70% 成人 71%	小学校5年生 74% 中学校2年生 73% 成人 74%	小学校5年生 76% 中学校2年生 73% 成人 54%	○ ○ ×
「食育」の言葉や意 味を知っている人の 割合	小学校5年生 13% 中学校2年生 10% 成人 65%	小学校5年生 15% 中学校2年生 12% 成人 67%	小学校5年生 18% 中学校2年生 15% 成人 54%	○ ○ ×
「地産地消」の言葉 や意味を知っている 人の割合	小学校5年生 30% 中学校2年生 85% 成人 95%	小学校5年生 35% 中学校2年生 87% 成人 95%	小学校5年生 78% 中学校2年生 72% 成人 84%	○ × ×
学校給食における町 内産農林水産物の使 用割合	57%	58%	58%	○



第4章 食育・地産地消の基本的な考え方

1 食育・地産地消に関する基本理念

本町では、国・県の基本理念を基として本町の地域性を踏まえ、食育・地産地消推進にあたっての基本理念を次のとおり定め、取り組みを進めていくこととします。

食育・地産地消の推進は、「食」に対する正しい知識の習得や健康の増進だけでなく、新鮮で良質な農林水産物を実感できる「地産地消」を推進します。この「食育」と「地産地消」を推進していくために、次の事項を基本として取り組んでいくこととします。

2 食育・地産地消の基本方針

基本理念を具体的に推進するために、次の事項を基本として取り組んでいくこととします。

〈食に関する学習の推進〉

〈地産地消の推進〉

〈安全で安心な農林水産物供給体制の推進〉

〈健全な食生活と健康の増進〉

〈6次産業化の推進〉

3 食育・地産地消の推進

(1) 食に関する学習の推進

食の学習については、生涯にわたって健康で豊かな食生活を実践するために、ライフステージに合った方法で推進します。特に子どもは、家庭・学校・地域等のさまざまな場面での体験を通じた取り組みが有効であると考えます。

また、食に関する学習を推進することは、子供の人間教育やしつけに資するものであり、「育てる」「つくる」「食べる」といった体験活動は、「食」に興味を持たせ、地域の食文化への理解を深めるとともに、望ましい食習慣を身につけられる子供たちを育成します。

(2) 地産地消の推進

本町は自然に恵まれ、四季折々の旬を感じさせる豊かな食材の宝庫です。これらの食材を活用した地産地消の推進は、安全な食材を選択する能力や、安心な食生活を送る意識を育て、食育推進の基礎づくりになると考えます。また、地場産物・地場産加工品の利用促進や地場産学校給食の推進は、地域の食文化を育み、スローフーズに対する意識にも繋がっていくものと考えます。さらに、イベントの開催やSNS等による地場産物の情報発信により、地元食材の食べ物を身近に感じられるようになると考えます。

(3) 安全で安心な農林水産物供給体制の推進

近年の口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ、CSF（豚熱）等の発生、残留農薬等の問題により、消費者からは、安全で安心な食材の提供が求められています。町では、農林水産物の安全で安心な供給体制を確立していくうえで、各生産流通ルートにおける生産管理体制や衛生管理体制の普及・推進を図るとともに、環境に配慮した生産への取り組みを支援します。

（４）健全な食生活と健康の増進

健康な心と身体を保つためには、健全な食生活は欠かせません。食事が自らの健康にどのように寄与するかを理解し、生涯にわたって健康でいられるための食に関する知識を深める必要があります。乳幼児期から思春期までは、発育・発達時期にあわせた食事の摂取、成人期においては食生活の改善、高齢期には、栄養バランスのよい食事の摂取を推進し、生涯にわたって健康の維持・増進を図っていきます。

（５）６次産業化の推進

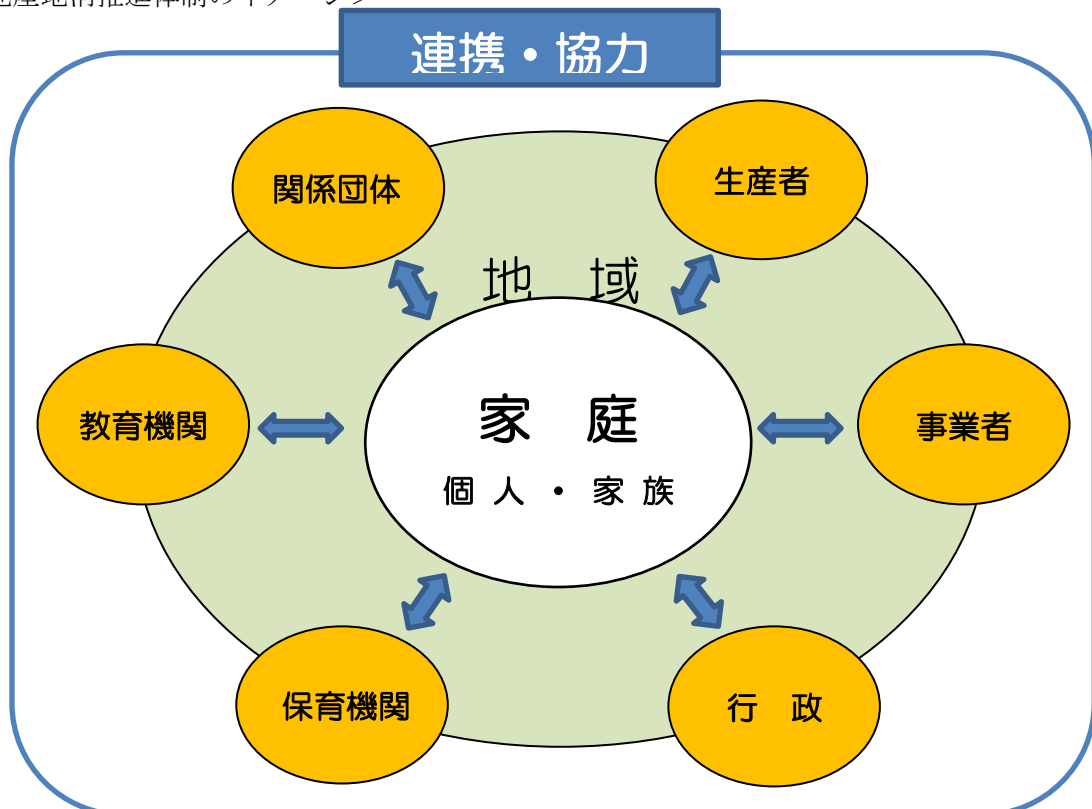
農家・町・県・ＪＡ等関係機関が連携し、農林水産物の付加価値向上や農林漁業者の所得向上及び地域の雇用拡大などを目指し、農業をはじめとするあらゆる業種の垣根を越え、第２次６次産業化推進戦略に基づき、総合的に推進していきます。今後は、新規就業者の確保を図りつつ、新商品の開発等取り組みながら、６次産業化を推進していきます。

また、町内の事業者や農産物加工業者等と連携し、各種農林水産物の６次産業化に向けた取り組みを関係機関一体となって支援し、情報発信に努めます。

４ 食育・地産地消における推進体制

食育・地産地消の推進は、地域全体で町民一人ひとりが食育及び地産地消を実践しやすい環境づくりを一体的に進めていくため、家庭を中心としながら、食育・地産地消に係る多様な関係者が担う役割を明確にし、相互に連携・協力を図りながら推進に取り組んでいくことが必要です。

<食育・地産地消推進体制のイメージ>



5 食育・地産地消における推進体系

基本目標	基本方針	具体的施策
6 次産業化による農林水産物の付加価値向上と稼げる農業づくり 地産地消を基本とした健康で豊かな食生活の実現と、	(1)食に関する学習の推進	①家庭における食育の普及啓発 ②学校・保育所などを通じた保護者への食育の普及啓発 ③家庭・学校・関係団体の連携の促進 ④学校での交流給食・給食試食会の実施 ⑤栄養教諭による食に関する指導 ⑥「鹿児島をまるごと味わう学校給食週間」にあわせた食育の推進
	(2)地産地消の推進	①学校における生産者による農林水産物の学習と交流給食の実施 ②グリーン・ツーリズムにおける農泊・農林業体験の推進 ③「さつま町産業祭&JA農業祭」や特産品まつりなど生産者と消費者の交流促進 ④町広報誌やSNSによる地元食材などを活用した郷土料理の紹介
	(3)安全で安心な農林水産物供給体制の推進	①直売所等を活用した地元農林水産物の利用促進 ②学校給食への地元食材の利用促進 ③地元食材の「旬」や「産地」などに関する情報の提供 ④K-GAPの取組促進と、ASIAGAP等への移行促進 ⑤みどり認定の取組促進
	(4)健全な食生活と健康の増進	①「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進 ②「食育月間」及び「食育の日」にあわせた食育推進運動の展開 ③乳幼児健診や親子教室等での乳幼児の栄養に関する情報提供 ④食生活改善推進員による地域での料理教室の開催 ⑤特定保健指導等における栄養管理・食事バランス・運動・休養等の指導 ⑥巡回歯科指導における口腔指導と食育指導の実施 ⑦食育ボランティアの養成・育成
	(5)6次産業化の推進	①新規就業者等の確保 ②農林水産物の高付加価値化 ③施設整備の支援 ④情報発信・販路拡大 ⑤業種・団体組織の垣根を越えた農商工連携の推進

第5章 食育・地産地消の数値目標

食育・地産地消を推進するためには、計画に基づき取組の成果を客観的に把握できるように、取組目標を設定し、本町の食育・地産地消を推進していきます。

項 目	現 状 (令和6年度)		目 標 (令和11年度)	
朝食を毎日食べている人の割合	小学校5年生	86%	小学校5年生	88%
	中学校2年生	85%	中学校2年生	87%
	成人	83%	成人	85%
栄養バランスを意識して食事している人の割合※	小学校5年生	76%	小学校5年生	78%
	中学校2年生	73%	中学校2年生	75%
	成人	54%	成人	56%
「食育」の言葉や意味を知っている人の割合	小学校5年生	18%	小学校5年生	20%
	中学校2年生	15%	中学校2年生	17%
	成人	54%	成人	56%
「地産地消」の言葉や意味を知っている人の割合	小学校5年生	78%	小学校5年生	80%
	中学校2年生	72%	中学校2年生	74%
	成人	84%	成人	86%
学校給食における町産農林水産物の使用割合	58%		60%	

※ 小中学生は、主食・主菜・副菜を食べる割合を現状では計上



参考資料

食育・地産地消に関するアンケート調査集計結果

第3次さつま町食育・地産地消推進計画を策定するにあたり、町民の食に関する現状や意識・課題を把握し、目標値の設定や実態に沿った取組を推進するための基礎資料とするため、さつま町食育・地産地消アンケート調査を実施しました。

○ 調査対象者

調査対象者	① 町内小学校5年生の児童
	② 町内中学校2年生の生徒
	③ 町内小学校5年生、中学校2年生の保護者

○ 調査期間

令和6年10月4日～令和6年10月25日

○ 調査方法・回収状況

調査対象者	調査方法	配布数	有効回答数	回収率
小学校5年生	配布（QRコード） 回収（Google フォーム）	142	90	63.3%
中学校2年生		157	97	61.7%
保護者		-	171	-

○ 調査内容

食育という言葉の認知度、食生活について、地産地消という言葉の認知度について等を調査内容としました。

問 「食育」という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
言葉も意味も知っている	16	18%	14	15%	93	54%
言葉は知っているが、意味はあまり知らない	65	72%	71	73%	63	37%
言葉も意味も知らなかった	9	10%	11	11%	14	8%
無回答	0	0%	1	1%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 「食育」に関心がありますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に関心がある	3	3%	12	13%	25	14%
どちらかといえば関心がある	42	47%	40	41%	122	71%
どちらかといえば関心がない	30	33%	35	36%	20	12%
まったく関心がない	14	16%	9	9%	3	2%
無回答	1	1%	1	1%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 「食育」とはどのようなことだと思いますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 日 3 食規則正しく食べること	33	37%	28	29%	34	20%
家族と一緒に食べること	8	9%	14	15%	27	16%
調理を体験すること	4	4%	2	2%	3	2%
食材や食品の選び方	1	1%	1	1%	2	1%
食品の栄養について学ぶこと	7	8%	14	15%	6	3%
食を通じて健康について学ぶこと	10	11%	16	16%	62	36%
好き嫌いをなくすこと	7	8%	4	4%	4	2%
よく噛んで食べること	1	1%	3	3%	0	0%
食べ物を無駄にしないこと	13	14%	8	8%	20	12%
農業体験をすること	5	6%	5	5%	12	7%
無回答	1	1%	2	2%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 朝食を食べますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
毎日食べる	77	86%	82	85%	142	83%
週 4 ～ 6 日食べる	10	11%	6	6%	13	7%
週 1 ～ 3 日食べる	2	2%	5	5%	12	7%
食べない	1	1%	3	3%	3	2%
無回答	0	0%	1	1%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 朝食を食べない理由

(朝食を週 4 ～ 6 日食べる、週 1 ～ 3 日食べる、食べないと回答した人)

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
食欲がないから	3	23%	10	67%	14	50%
時間がないから	7	54%	2	13%	12	43%
家族が食べないから	0	0%	0	0%	0	0%
ダイエットのため	1	8%	0	0%	0	0%
朝食が準備されていないから	2	15%	2	13%	2	7%
無回答	0	0%	1	7%	0	0%
合 計	19	100%	15	100%	28	100%

問 主食・主菜・副菜を 3 つそろえて食べることが 1 日に 2 回以上あるのは週に何回か

(毎日食べる、朝食を週 4 ～ 6 日食べる、週 1 ～ 3 日食べると回答した人)

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど毎日	42	47%	50	54%	61	37%
週 4 ～ 5 日	26	29%	18	19%	29	17%
週 2 ～ 3 日	7	8%	6	6%	33	20%
週に 1 日程度	2	2%	5	6%	12	7%
ほとんどない	5	6%	2	2%	17	10%
無回答	7	8%	12	13%	15	9%
合 計	89	100%	93	100%	167	100%

問 朝食は誰と食べますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家族そろって食べる	30	33%	40	41%	82	49%
家族や知人など誰かと食べる	27	30%	31	32%	40	24%
一人で食べている	25	28%	19	20%	34	20%
その他	7	8%	0	0%	11	7%
無回答	1	1%	7	7%	0	0%
合 計	90	100%	97	100%	167	100%

問 間食しますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
毎日食べる	16	18%	38	39%	76	44%
週 3 ～ 4 日食べる	26	29%	34	35%	49	29%
週 1 ～ 2 日食べる	29	32%	13	14%	22	13%
ほとんど食べない	16	18	9	9%	19	11%
まったく食べない	3	3%	2	2%	4	2%
無回答	0	0%	1	1%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 好き嫌いがありますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんどない	15	17%	21	22%	70	41%
少しある（1 ～ 4 品）	38	42%	41	42%	82	48%
たくさんある（5 品以上）	37	41%	32	33%	18	10%
無回答	0	0%	3	3%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 生活習慣病に気を付けて食事をしていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
気を付けている					65	38%
気を付けていない					34	20%
どちらともいえない					71	41%
無回答					1	1%
合 計					171	100%

問 メタボリックシンドロームを知っていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
言葉も内容も知っている					112	65%
言葉は知っているが内容は分からない					28	16%
知らない					30	18%
無回答					1	1%
合 計					171	100%

問 栄養バランスを考えた食事（料理）をしていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
している					31	18%
まあましている					100	58%
あまりしていない					33	19%
していない					6	4%
無回答					1	1%
合 計					171	100%

問 食事の準備や料理の手伝いをしていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よくしている	32	36%	40	41%		
時々している	39	43%	42	43%		
あまりしていない	15	17%	14	15%		
していない	4	4%	0	0%		
無回答	0	0%	1	1%		
合 計	90	100%	97	100%		

問 農林業体験に参加したことがありますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	52	58%	46	47%		
ない	37	41%	50	52%		
無回答	1	1%	1	1%		
合 計	90	100%	97	100%		

問 どのような内容の農林業体験に参加したいと思いますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
種まきから収穫までたくさんの作業を体験できるもの	30	33%	28	29%		
収穫したものの調理体験ができるもの	25	28%	36	37%		
家畜のえさやりやお世話が体験できるもの	14	16%	12	12%		
きのこのコマ打ちや木工体験ができるもの	16	18%	13	14%		
無回答	5	5%	8	8%		
合 計	90	100%	97	100%		

問 どのような形の農林業体験に参加したいと思いますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
地域のイベントに合わせて参加できるもの	14	16	14	15%		
宿泊ができるもの	14	16	10	10%		
家族や友達と一緒に参加できるもの	60	66	66	68%		
オンラインで参加できるもの	2	2	1	1%		
無回答	0	0	6	6%		
合 計	90	100%	97	100%		

問 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
言葉も意味も知っている	70	78%	70	72%	144	84%
言葉は知っていたが、意味はあまり知らない	13	14%	13	14%	21	12%
言葉も意味も知らなかった	6	7%	11	11%	5	3%
無回答	1	1%	3	3%	1	1%
合 計	90	100%	97	100%	171	100%

問 「地産地消」に関心がありますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	人数	構成比	人数
非常に関心がある	10	11	24	25%	32	19%
どちらかといえば関心がある	45	50	44	45%	105	61%
どちらかといえば関心がない	22	25	15	16%	25	15%
関心がない	13	14	12	12%	7	4%
無回答	0	0	2	2%	2	1%
合 計	157	100%	97	100%	171	100%

問 「地産地消」に何を求めていますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
新鮮でおいしい農産物					42	24%
安心・安全な農産物					94	55%
安価な農産物					15	9%
生産者の顔が見える農産物					14	8%
生産者との交流					2	1%
その他					1	1%
無回答					3	2%
合 計					171	100%

問 「地産地消」を意識して農林産物を購入していますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
している					15	9%
まあまあしている					79	46%
あまりしていない					58	34%
していない					15	9%
無回答					4	2%
合 計					171	100%

問 「地産地消」を進めるとすれば、どのようなことに重点を置けばいいと思いますか

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
学校や保育園などの給食での地域食材の活用を進める					56	33%
スーパーマーケットなどの量販店での地域食材の販売拡大を進める					50	29%
観光関連施設や飲食店での地域食材の活用を進める					13	7%
地域の直売所での直販活動を進める					24	14%
消費者と生産者をつなぐネットワークづくりを進める					13	7%
地域の農林水産物を使った料理教室や料理コンクールを開催する					1	1%
地域の農林水産物やその加工品を販売するイベントを開催する					5	3%
地域の農林水産物などの情報を、SNS や広報・新聞等を通じ提供する					5	3%
わからない					1	1%
無回答					3	2%
合 計					171	100%

問 町内産（又は県内産）の農林水産物についてどのようなイメージを持っていますか（複数選択）

項 目	小学校 5 年生		中学校 2 年生		保護者	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
新鮮だと思う					97	38%
思ったほど新鮮でない					5	2%
安心・安全だと思う					66	26%
安心・安全だと思わない					5	3%
どちらかといえば値段が安い					37	14%
どちらかといえば値段が高い					11	4%
手に入りやすい					30	12%
手に入りにくい					3	1%
無回答					1	0%
合 計					255	100%